

②イギリスの協同組合の誕生

産業革命後の経済社会の変化

産業革命を成し遂げたイギリスは、一八世紀後半から十九世紀前半にかけて、激しい経済社会の変化を経験しました。産業革命の進展に伴い、資本家と労働者階級の区分が明確になり、労働者は低賃金で長時間過酷な条件の下で働かざるを得ない状況が生まれました。

こうした中で、ロバート・オウエンの登場によって近代的協同組合の思想と実践は、本格的なものとなっていきました。

経営者オウエンが取組んだこと

オウエンは、一七七一年、イギリス北ウエールズに生まれ、ロンドンで長い店員生活を送ったのち、一八〇〇年、スコットランドのニューナーク紡績工場の経営者となりました。

この工場で、オウエンは徹底的な労働者の待遇改善を実施しました。まず、労働時間を十三時間から十時間半と大幅に短縮し、幼少年労働を禁止しました。

そのほか、労働者に住宅を提供したり、購買店舗をつくって安価で良質な生活用品を提供したり、医療施設や無料で少年たちが勉強できる学校、幼稚園の設立など、いろいろな環境を整備して、労働者たちが安心して働けるようにしたのです。

オウエンの協同思想の成果

彼の思い切ったやり方は、みごとに功を奏し、労働者は健康になり、よく働くようになったために、工場の生産も十数年後には非常に伸びて、株の配当も倍以上できるようになりました。

彼は二十五年間にわたる工場経営のなかで、企業利益のみならず、労働者の生活の向上も実現できることを証明したのです。

これらの試みは、「労働者たちをよい環境のなかにおき、彼らによい習慣を教えるならば、必ずや、彼らはずから責任をはたすことのできる市民になる」というオウエンの協同思想にもとづくものでした。

『協同組合の話』家の光協会より

『JAと私たちの役割』石田正昭著より

こんなことも……

オウエン（54歳）は、1825年からアメリカのインディアナ州に自給自足を原則とした私有財産のない共同生活村（ニュー＝ハーモニー村）を多額の資産を投入して創設しました。しかし、この計画はわずか1年で失敗しました。集まった人の中に、単なる興味や冒険心から来た人が多く混ざっていたことが原因のようです。

オウエンの考え方には、協同組合思想の基礎となる人間性の尊重と、弱者の立場に立った自由平等の思想が強く流れていたため、気質的にあわなかったようです。



ロバート・オウエン

『新 協同組合とは<三訂版>』
JC 総研 からの引用